

2017年度理事長所信

第63代理事長 大井譲

「Change」

「想い」はやがて「言葉」になり

「言葉」はやがて「行動」を伴い

「行動」はやがて「共感」を生み

「共感」はやがて「未来」をつくる。

全ての未来は己の心の中から始まる。

いつの時代でも、どんな事柄でも、もとをたどれば誰かひとりの想いが発端となり、この世界を変えてきた。誰かが「想い」を持たなければ、誰かが「言葉」に出さなくては、この世界に住み暮らす我々にとって希求する変化は起きない。若き能動的市民の主導的立場を謳う我々は、常にそのことを追求する一人ひとりの集団であり続けなければならない。自分自身の小さな「変化」から、あらゆる「行動」を伴い、自分が変われば職場や家庭をはじめ周りの人たちの「共感」を生み、それはやがてこのまちへ、日本中へ、そして世界中へと、明るい豊かな「未来」に繋がると確信している。すなわち私たちの「世界」を変えるということは「自分」を変えなければならない。

誇りに想えるまち

「誇り」をもつために。それはまず知ること、次に好きになること、そして自信をもつこと。中世は貿易都市・自由都市として栄えたわがまちは、現状、全国でも有数の人口規模を有し、歴史や文化・伝統を誇るまちである。しかし大都市に隣接しているゆえ、全国的に存在感を示しているかという点決してそうではないと感じる。私たちが住み暮らすこのまちと深く関わり、まずこのまちが誇る魅力を私たち自身が知り、それを愛し、自信を持つことが必要である。青年会議所として地域が持つ特色を活かし、このまちのアイデンティティを感じ、ヒトとモノが集うまちをめざして、新たな魅力も発信していかなければならない。また、一昨年に続き、昨年も百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録への挑戦は、惜しくも国内推薦を得られなかったが、わがまちの世界に誇れる地域の宝を引き続き、国内、世界に向けて発信していくことが必要である。青年会議所として如何にして市民の意識を向上させ、一体となって発信できるか、どれだけこのまちのことを誇りに想えるかを念頭にJCだからこそできるまちづくりを進めていかなければならない。

自分たちで「未来」を考える

2017年はこのまちの未来を選択する上で重要な年となる。公職選挙法の改正により、昨年の参議院議員選挙では、投票できる年齢が18歳に引き下げられ注目を浴びた。若いころから政治に関心を持つと同時に、知識を得たうえで自分で判断をしていくことがこれからの時代を担う世代にとって重要なことである。そして新しく投票権が引き下げられた18歳、19歳の投票率に目を向けがちであるが、20代、30代の投票率の低さが著しいことも注目しなければならない。これからの国を、まちを、背負っていくのは我々青年である。青年会議所は政治的に中立不偏不党の立場を守りながら、教育現場における政治教育も含め政策本位による政治選択をおこなえる環境の拡充に取り組み、若い世代がもっと自分事と捉え、地域を想い、より積極的に参画していく意識を醸成していかなければならない。「自分たち」が変わらなければ希求する「未来」はやってこない。2017年は青年である私たちも含め市民ひとりひとりが「未来」を描き考えていただく機会を創出し、このまちにJCインパクトを与えていく。

このまちの可能性を考える

私自身がJCに入会して、入会以前と明らかに「変化」したことがある。それは国際の機会に触れることが多くなったことだ。私たちが所属するJCIのネットワークは世界中に広がり、異なる国の人々と交流し、異なる文化と触れることで、国は違っても多いに共感し合える部分があったり、この国やまちで生きている有難さを改めて実感したりと、様々なことを相対的に考える機会を齎してくれている。国際の機会に触れることが自分たちの国やまちの魅力をより強く感じさせ、未来の発展へと繋がると信じている。即ち、国際交流は「外」の世界に映し出される「自分」たちを磨く鏡である。私たちもJAYCEEとしてもっとこのような機会に積極的に携わっていくべきであるし、市民の方々にもこのような機会を創出していかなければならない。また2015年に定めた長期運動指針で掲げた大規模大会の開催を、昨年はASPAC大会に照準を絞り、誘致に向けた検討を始めた。インバウンドの気運が年々高まっている現状において、青年会議所としてもアジア諸国をはじめ世界各国と、文化・経済等さまざまな分野で国際交流を進めている。私たちはこのまちが持つ可能性を最大限に引き出し、ヒトとモノが集う自由と自治の国際都市、多彩で多様な魅力あふれる国際都市をめざしていく。このまちに住み暮らす人たちに「外」の世界と触れることで起こる小さな「変化」を齎し、このまちのことを誇りに想える大きな「未来」を期待している。

「共感」の輪を拡げ、青年会議所の発信力を高める

我々が目指すまちづくりには多くの市民の「共感」を得られなければ達成し得ない。「一人のまちづくり」から「二人のまちづくり」、「三人のまちづくり」へと拡がっていくのである。全国的にＪＣの会員数が減少する中、近年、当青年会議所は会員数を増やし続けている。２０１７年度も長期運動指針に基づき、さらなる会員数の増加を目指していく。しかし会員拡大において絶対に忘れてはならないことがある。単に会員数を増やすことが目的ではない、一人でも多くの地域の方々に共感してもらい、共に運動発信をしていこうという「想い」が必要である。すなわちＪＣにおいて会員拡大イコールＪＣ運動発信の根源でなければならない。組織のダイバーシティは新たなる運動発信の場を拡げ、更なる地域への発信力を高めることができる。そして新たなる仲間を迎え入れ、如何にして「想い」を共有し、共に運動発信をしていくかを考えていくことが、出席率の向上や退会率の減少にも繋がる。全国的にも有数のＬＯＭとなった今だからこそ熱誠に会員拡大に取り組み、この堺高石から「共感」の輪を拡げ、日本の「未来」を変えていかなければならない。

青年会議所の価値を高めるブランディング戦略

青年会議所が市民から見て魅力のある団体であるか。現在では社会奉仕団体や青年団体が数多くある時代である。青年会議所としての独自性、魅力、発信力を高めるために広報活動にも力を注がなければならない。WEBやSNS、各メディアを活用し活動内容を地域の方々へ広く知ってもらいＪＣの認知度を上げ、地域に対して様々な角度から迅速に運動発信をおこなっていく。しかしSNS等の利用者が急増しているいま、社会に提供される情報量は飛躍的に増えている。喧嘩的で変化のない単一な情報発信では受け流されてしまうであろう。我々の目標はどこにあるのか、市民に何を伝えたいのかを明確にし、青年会議所の価値を高めるべく、熱い「想い」と、しっかりとした「戦略」をもち堺高石ＪＣのブランディングを推進し、より市民から必要とされる集団へと変化をしていきたい。また総務としての担いは派手さはないかもしれないが、会を運営していくうえで非常に重要な役割である。「総」は全体をまとめるという意味も持つ。広い視野を持ち、全体のことを想う「想務」であることがこの会の運動発信の下支えとなる。そして今後も先輩から受け継いだＪＣ会館を拠点とし、事務局・広報・総務が一体となって我々の「想い」を市民へと伝えていく。

青年会議所の存在意義

前述したとおり、組織としてダイバーシティを持つことは非常に重要で組織の発展には欠かせない。しかしそれはしっかりとした組織の理念に基づき、揺るぎない根源の上に成り立つものである。砂上の楼閣であってはならない。年齢、職業、性別、国籍も様々な集団であり、そして単年度制を採用するこの組織だからこそ、会員一人ひとりが青年会議所に所属していることに誇りを持ち、組織としての、個としての存在意義を明確に持つ必要がある。では青年会議所の運動とはどのような意義があり、どういった視点を持つことが大切であろうか。我々はこのまちに住み暮らすひとの集団であり、市民のニーズを的確に把握し地域から必要とされる団体であり続けなければならない。それと同時に常に時代の先端を見据え、青年会議所が持っているネットワークと情熱溢れる人財を活かし、新しい可能性を切り拓くことを信じて運動を発信することに我々の存在意義があると確信している。ＪＣにしかできない個性を発揮し、「想い」を共有しながらどのような運動をおこなっていくのかを考える機会を提供していく。新しい英知を導入し、地域へＪＣインパクトを与え続け、青年会議所が齎す少しの「変化」が、このまちの大きな「未来」になることを信じている。

人は人によって磨かれる

ＪＣに入会した理由は人それぞれ多岐にわたる。地域活動に興味があるから。自己成長できるから。仕事につながるから。その中の一つに人脈が広がるから、それは私が３１歳の時に入会した動機のうち大きな部分を占めていた。青年会議所には、修練・奉仕・友情という三信条が存在している。この三信条は有機的につながっており、何か一つが欠けても我々のめざす運動は成し得ない。近年会員数が増え続けている現状において、メンバーにあらゆる角度からアプローチしまずは青年会議所運動に参加しやすい環境をつくる必要がある。堺高石のスケールメリットを活かして、様々な交流を持てる場を積極的に提供し、友情を少しずつでも育てていきたい。その繰り返しが出席率の向上に繋がるとも確信しているし、一体となってより強い運動発信を生むであろう。また私たちが決して忘れてはならないのが、ＪＣ運動に時間と費用を使いながらも、送り出してくれている人がいることである。感謝の念を抱き、その人たちのことを「想う」からこそ我々は真摯にＪＣ運動に取り組む必要がある。新たな人との出会いと支えてくれる人への感謝が、自分に「変化」を齎し、人の心は磨かれていく。そんなことを学べるのもこの青年会議所の大きな意義の一つである。

進むべき道には

青年会議所に入会して幾度となく強く思うことがある。それはひとりのチカラでは本当に無力だと感じることである。一人では実現しなくても青年会議所で得た友情を共感しあえる仲間がいれば大抵のことは実現すると確信している。進むべき道には必ず、先人たちの熱い情熱や、送り出してくれる温かい家族、励ましてくれる頼もしい仲間がいることを忘れてはならない。青年会議所もそうである。あらゆる会議や各種大会、懇親会でさえ、そこには必ずその道を支えているメンバーが存在する。その道を進む人、支える人、どちらかが欠けても我々の目指す運動は成し得ないし、それぞれが他を慮ることを忘れてはならない。JCにおける出向もそうである。昨年度はLOMからの出向者が延べ80名を超えた。全国の会員会議所メンバーとも志を同じくし、友情を育み、地域を越えて共にJC運動を発信する機会が増えている。またそのことは視点を変えてみると、全国へ堺高石のまちとひとを発信していることに他ならないし、「外」の地域からも逆に「自分」の地域を見られていることを意識しなければならない。「外」の世界に触れることで磨かれる、鏡に映る「自分」の変化を楽しみ、道を進む人と支える人、共に熱い「想い」をもってこの堺高石のまちとひとの「共感」を広げていかなければならない。

光輝く未来のために

「青年」それはあらゆる価値の根源である。
これは我々のスポンサーJCである大阪青年会議所の設立趣意書に書かれた言葉である。未来を切り拓くのは我々青年であり、熱い「想い」を持ってこのまちの未来と向き合っていかなければならない。そんな私たちだからこそ責任を持って次世代の人材育成に真摯に取り組む必要がある。学校現場では様々な教育の取り組みがなされ、地域では様々な青少年の健全な成長を促す事業がある。我々は時代の状況を把握しながらもその中で時代の先端を進んでいかなければならない。青年会議所は地域や行政、各種団体と様々なつながりを持ち、多様なメンバーが在籍している。創始の精神と勇気ある英知を持ってJCだからこそできる複合的かつ独創的、個性的な事業を構築していきたい。次世代の育成は学校現場における教育や家庭内における教育は勿論のこと、世の中で起こること、人生で感じとることすべてが重要である。地域社会のコミュニティの形成、安心して暮らせるまちづくり、地域企業の経営基盤の安定、次世代の育成にはこのまちのすべてのことが緊密に関係しあっている。感受性溢れる世代に肌で感じてもらい、心にインパクトを与え、やがて自ら考え行動する時が来る。共にこのまちの未来を創り出す一人の人として真摯に向き合っていかなければならない。次世代が夢や希望を持ち、明るい未来を描く、そんな「想い」が溢れる社会をめざしていきたい。

昨年度はリオデジャネイロ五輪において日本選手団の活躍があり、そして2020年の

東京五輪の開催が決まっているなか、国民的にスポーツや体を動かすことへの関心が高まっている。青年会議所はスポーツを通じた次世代育成、地域活性にも寄与していきたい。わんぱく相撲などを通じて、子どもたちに勝つことの喜び、負けることの悔しさ、そして何よりも日本人の「和」の心に通じる礼儀礼節と他を慮る心を感じ取ってほしいと願う。次世代へ齎す少しの「変化」が、我々にも共育を齎し、このまちの「未来」にとって、この国の「未来」にとって、この世界の「未来」にとって、光輝く大きな価値の根源となることを確信している。

心をひとつに、最大限のJCインパクトを

堺高石青年会議所は60年を超える年月をこのまちと共に歩み、先輩たちの情熱でこのまちへ多くの運動を発信してきた。いま一度その想いを受け止め、私たちが希求する明るい豊かな社会をめざし、地域にJCインパクトを与え続けなければならない。あらゆる世代の人々がこのまちに生まれ育ってよかったと思える誇りを、これからも子どもたちと一緒にこのまちに住み暮らしていきたいと思える夢や希望を、そしてこのまちに明るい明日を思い描くことができる未来を、そんな「想い」を実感していただける事業を構築していきたい。それが60年を超える歴史を有する我々堺高石青年会議所に課せられた最大の課題であり、目標であり、目的である。2017年度は大規模大会誘致を掲げるなか、国際交流・地域交流・経済活性・青少年育成など様々な視点から物事を大局的に捉え、JCメンバーの英知と勇気と情熱を全力で注ぎ、行政や各種関係団体、地域企業と連携を図りながら、このまちが有する光輝く資源を活用し、このまちに住み暮らす誇り高い人々と協働して、地域へ最大限の運動発信の場を創出していく。強い「想い」を持ち、共に「行動」し、仲間と「共感」し合い、このまちの「未来」を作っていく、そんな集団へと更なる「進化」を遂げよう。己の心の中に起こる「変化」が明るい豊かな「未来」を創造すると信じて。